



広島自治会
会長 猪俣 武雄
802-2391

「広島防災訓練と災害時安否確認カード掲示訓練終了」

9月6日に中田中央公園で行われた防災訓練に、約100名が参加、①消火器の取り扱い、②住民が出来るけが人の搬送、③災害発生時トイレが使えなくなった時の応急トイレの使い方、④上手な救急車の使い方の訓練が行われました。

「災害時安否確認カードが何故必要なのか、もう一度考えましょう」

9月6日の、災害時安否カード掲示訓練では、集計の結果約30%の掲示率でした。

この安否確認カードは、震災時に安否確認を効率的に確認する助けになります。大きな地震が起こった時、停電になり、道路は大渋滞、電車も運休となるでしょう。

まず、自分と家族の生死と安否の確認が第一となります。

次はお隣さんです。大きな声で呼び掛けなければ、家の中の人の安全を確認出来ません。

自分や家族の安全が確保できた時にこの「災害時安否確認カード」を道路から見える所へ掲示して下さい。カードの掲示がない家の安否確認をご近所力で行う町をつくりましょう。自治会全体で、安否確認や救助活動を開始するには時間がかかります。小回りがきくご近所の力を合わせ安否確認を進めて下さい。

一人では避難行動が出来ない災害時要援護者の安否確認も重要な仕事です

【災害時安否確認カードの使い方】

- 1, 横浜市で震度5強以上の地震が発生したとき
- 2, 自分の家族全員の安全が確認出来たとき
- 3, 道路から見やすい場所にカードを掲示する
(風で飛ばされないように注意。カードには名前を書いて下さい)
- 4, 地震発生から3日間は、カードを掲示する
- 5, ご近所力で、カード掲示の無い家の安否確認をしましょう(救助は時間との勝負です)

* 3日間=72時間を「黄金の72時間」「72時間の壁」と言います。災害における人命救助の言葉として、災害救助のひとつの目安となっています。



「安否確認カードは、泉区の全世帯に配布されています」

【災害時安否確認カードの掲示訓練は、年に数回実施する予定です】

「新しい生活様式が提唱されています」

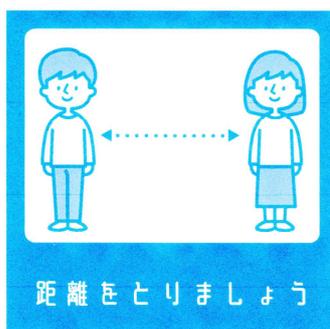
感染を予防しながら日常生活を送る with コロナの時代。緊急事態宣言が解除されて以降、自粛要請の緩和や都道府県を越えての移動、大型イベントの解禁、GO TO トラベルキャンペーンなど、徐々に経済生活を戻していく動きが始まりました。

一方で一度おさまりつつあった新規感染者数は6月末から再度増加。9月から徐々に減少傾向が見られますが、秋冬のインフルエンザ流行シーズンと重なり、再度の増加が懸念されます。

「一人ひとりが自分自身を守るために感染対策をとる必要があります」

○感染防止の3つの基本を守りましょう（身体的距離の確保、マスクの着用、手洗い）

- ・人との間隔は、出来るだけ2m以上空ける
- ・遊びに行くなら屋内より屋外へ
- ・会話をするときには、可能な限り真正面を避ける
- ・外出時、屋内にいる時会話をするときには、症状がなくてもマスク着用
- ・家に帰ったら、まず手や顔を洗う
- ・手洗いは30秒以上かけて、水と石けんで丁寧に洗う



10月1日より、泉区休日急患診療所が移転しました
立場地区センターの隣にありました「泉区休日急患診療所」と「横浜市南西部夜間急病センター」が泉土木事務所の隣（泉区役所の並び）に移転しました。大地震などの災害時には医師会員が緊急参集し、診療業務を行います

「暗証番号を聞かれたらそれはサギ」

警察官、区役所、銀行がキャッシュカードの暗証番号を聞くことは絶対にありません

中田地区で区役所の職員を名乗る犯人に、キャッシュカードをだまし取られる事件が発生しています。

空き巣、自転車盗、のぞきも発生しています。家の周囲を定期的に見回して下さい。犯人は下見をしています。

【不審者を見かけたら迷わず110番、通報者のプライバシーは守られます】